

2007年度 事業報告書

(付:2008年度事業計画・予算及び役員・委員名簿)

2008年8月

ANNUAL REPORT 2007
AUGUST 2008

財団法人ロータリー米山記念奨学会
Rotary Yoneyama Memorial Foundation, Inc.

CONTENTS

はじめに

2007年度を振り返って	理事長 板橋 敏雄	
設立趣意書	2
目的と事業	3

事業・会計報告

2007年度 事業報告	4
2007年度 会計報告	25
より身近な奨学事業の実現にむけて ～課題の整理～	28

事業計画・予算

2008年度 事業計画	30
2008年度 予算	43
2008年度 主要年間計画表	44

役員・委員

理事・監事・評議員	46
選考委員・専門委員	50
米山奨学委員長・米山委員	51

組織図・職員

組織図・職員	52
--------	-------	----



2007年度を振り返って

財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長 板橋 敏雄

日本の全てのロータリアンが誇りに思い、世界のロータリーも高く評価している米山記念奨学事業の理事長を拝命して、早くも1年が経過しようとしております。この間、尊敬する島津前理事長と同様の厚いご支援をお与え頂きまして全国のロータリアンの皆様に心より感謝申し上げます。

ご承知の通り、本事業は全国の皆様のご寄付に支えられています。本年も昨年同様の14億5千万円の予算を立てておりましたものの、年央より、異常なまでの世界的経済変動を受けて日本経済の萎縮も心配されて居りましたので、目標達成を大変に懸念しておりましたが、6月30日締め切り当日に於いて、目標を達成する事が出来ました。普通寄付金は0.91%減少しましたが、特別寄付金が0.42%増加し、寄付金合計では0.02%（30万円）増となりました。皆様の絶大なご支援に衷心より感謝申し上げます。

米山梅吉翁が最初に意図されましたように、我々のお世話したアジアを中心にした米山学友は既に13,687名に達しています。そして有り難い事に、彼等学友は夫々のお国で各界に於いて活躍しているのであります。そのうちの一人、北京で弁護士事務所を成功させている、東京大学大学院卒の姫 軍（ジジュン）さんからは今年2回目の50万円のご寄付を頂き、大口寄付者と成りました。こうした学友の皆様からの恩返しのご寄付が今年で1,000万円を超えました。アジアの平和のネットワークが確実に成長しつつあると信じます。

また、理事長として感謝しておりますのは、事務局の職員皆様の献身的な貢献です。今年のミャンマーのサイクロン災害、中国四川省の大地震においては、直後から学友にメールの連絡を取り続けている事であります。その結果数多くの連絡が取れています。この様な細心の心配りが私達の奨学事業を下支えしていると思えます。

次年度では、これらの関係をベースに、各地区より選定頂いた学友のホームカミング制度を実施いたします。世話クラブとの関係を密にするばかりでなく、地区や地域の人達に我々のこの素晴らしい事業を理解してもらう機会にして頂きたいと思えます。また、9月末までに各クラブへロータリー米山記念奨学会事業の新しい広報用DVDをお送りし、例会等でご利用戴く予定です。

どうぞ2008年度も相変わらずのご理解とご奉仕を心よりお願い申し上げます。

設 立 趣 意 書

財団法人 ロータリー米山記念奨学会

この法人は、主としてアジア諸国、又はその他のロータリー所在国の学生又は学者に対し、わが国において勉強又は研究するための奨学金を支給し、よってロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することを目的として設立する。

この法人は、昭和24年に東京ロータリー倶楽部が設定し、昭和32年に全国のロータリークラブに参加を求めて以来、逐年発展し、今や在日全ロータリークラブの共同事業となり、国際留学生に対する奨学金の支給を通じて、所期の目的たる国際理解と親善にも多大の成果を収めつつある、ロータリー米山記念奨学会の事業と財産を継承し、法人化によってその基礎を確立し、今後一層奨学事業の発展を期するため設立されるものである。

この法人は、全国ロータリークラブの寄付を主たる財源とし、ロータリー会員によって運営され、ロータリー目的達成に寄与することを目的としている。

昭和42年

(財)ロータリー米山記念奨学会の目的と事業

米山奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的としています。

米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会やロータリーの奉仕活動に参加することによって、日本の文化、宗教、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

年間の奨学金支給額はおよそ12億5千万円、1967年に財団法人として認可されて、これまでに113カ国から14,500名の奨学生を支援してきました。規模と実績ともに民間で最大の留学生奨学団体となっています。

2007年度 事業・会計報告

(2007年7月1日～2008年6月30日)

I. 奨学生数と奨学金制度	5
II. 奨学生の募集と選考	6
III. カウンセラー研修とハラスメント相談室の開設	10
IV. 学友のフォローアップ	10
V. ローターリー米山記念奨学会学友会	12
VI. 広報活動	13
VII. 寄付金	16
VIII. 会議および研修会の開催	18
IX. 庶務事項	21
X. 会計報告	25

I. 奨学生数と奨学金制度

奨学生	2007学年度	2008学年度	月額奨学金	奨学期間
学部課程奨学生 (YU)	112名	121名	10万円	2年以内
	学部3、4年目および医、歯、獣医学部5、6年目 国籍により制限がある			
修士課程奨学生 (YM)	362名	396名	14万円	2年以内
	大学院修士課程1、2年目			
博士課程奨学生 (YD)	306名	270名	14万円	2年以内
	大学院博士課程2、3年目および医、歯、獣医学系博士課程3、4年目			
地区奨励奨学生 (DS)	10名	12名	7万円	1年
	短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程、準備教育課程、 アジア学院、PHD協会など			
クラブ米山奨学生 (CY)	15名	9名	14万円	1年 または6カ月
	学部・修士課程の最終学年に在籍する米山奨学生で、同地区・同大学の 上級課程進学者。博士課程最終学年に在籍する米山奨学生で、 博士号取得見込みの者			
現地採用奨学生 (JRY) 施行国:ベトナム	2名	4名	7万円	修士2年間 博士3年間
	最終的に日本の受入大学から渡日前入学許可書を受領できる者			
海外学友会推薦奨学生 (SY-A)	2名	1名	14万円	12カ月
	韓国、台湾の学友会が組織する選考委員会より推薦された韓国、 台湾の大学・研究機関に所属する常勤の上級研究者(博士号取得者)			
合 計	809名 ※1	813名 ※2		

注：学年度は4月から1年間。ロータリー年度とは異なる。

※1 2007学年度は、奨学生番号取得後の辞退1名、途中辞退による欠番1名があったため800名採用において2名欠番の798名の採用となった。2名採用で1名枠となる地区奨励奨学生採用が10名：これにより5名が枠外。加えて、前年度までの休学による期間延長者が6名存在するため、合計809名となる。

※2 2008学年度は、800名採用。2名採用で1名枠となる地区奨励奨学生採用が12名：これにより6名が枠外。加えて前年度までの休学による期間延長者が7名存在するため、合計813名となる。

Ⅱ. 奨学生の募集と選考

1. 2008学年度奨学生数と選考

(1) 採用数と奨学金別採用枠の設定

2008学年度奨学生数は800名とし、その内訳を学部・修士・博士課程・地区奨励・クラブ支援奨学生枠を794名、海外学友会推薦奨学生枠を2名、現地採用奨学生枠を4名と決定しました。なお、地区奨励奨学金とクラブ支援奨学金は、各地区の採用数の20%以内が採用枠となります。

【2008 学年度奨学生採用枠・採用数・応募数】

奨学金種類	採用枠	採用数 (前年度)		応募数 (前年度)
学部・修士・博士課程奨学生	794	121 (112)	808 (806) 継続：203 新規：605	1,392 (1,456) 指定校 408 (399)
		396 (363)		
		270 (306)		
地区奨励奨学生		12 (10)		
クラブ支援奨学生		9 (15)		
現地採用奨学生	4	4 (2) 継続：2 新規：2	4 (2)	70 (44)
海外学友会推薦奨学生	2	1 (2)	1 (2)	6 (6)
合計	800	813 (810)		1,468 (1,506)

2008年7月現在

(2) 募集と選考

①学部・修士・博士課程、地区奨励奨学金制度の募集と選考

奨学生（学部・修士・博士課程、地区奨励）は、各地区で指定した大学及び学校408校の指定校推薦制度によって募集が行われ、344校から1,378名、クラブ支援奨学金14名を併せて合計1,392名の応募を受付けました。各地区選考委員会にて書類・面接選考を経て合否が2008年2月初旬まで行われました。指定を受けたにもかかわらず応募がなかったのは64（68）校で、今後、地区選考委員会において大学側との事前情報収集が必要とされます。

■高等専門学校専攻科1、2年目を学部3、4年目とみなす制度

2008学年度において指定した地区はありませんでした。

2007学年度においては、2600地区、2640地区、2650地区で各々1校、計3校の高等専門学校を指定しました。しかし、既に国費奨学金の継続支給が決定しているため、有資格該当者がいないなどの理由で推薦がありませんでした。

【2007学年度 高等専門学校専攻科を指定した3地区】

2600：長野高専専攻科/2640：和歌山高専専攻科/2650：福井高専専攻科

■地区奨励奨学金制度（大学・大学院以外の学校を指定校とする制度/月額奨学金が大学院生の半額7万円のため、割当数1名枠で2名採用が可能）

2008学年度募集は、下記の通り、6地区が地区奨励奨学金制度を導入し、9校が指定されました。このうち被推薦者の応募があったのは4地区5校、

14名の応募を受付け、最終的に12名が合格しました。

2710地区では、初めて広島YMCA国際ビジネス専門学校を指定校とし、4名の応募がありましたが、2600、2620地区での指定校は有資格者が在籍せず、応募がありませんでした。

【地区奨励奨学金制度の指定校】

地区	学校名	合格者数	応募者数	推薦者枠
2550	1) アジア学院	4	4	4
2600 ※	2) 清泉女学院短期大学	0	0	2
2620 ※	3) 日本航空大学校 (旧：日本自動車専門学校)	0	0	2
	4) 静岡工科自動車大学校 (旧：静岡工科専門学校)	0	0	1
	5) オイスカ開発教育専門学校	0	0	1
2660	6) 日本学生支援機構大阪日本語教育センター	2	2	2
2680	7) 神戸 YMCA 学院専門学校	1	1	1
	8) (財) PHD 協会	3	3	3
2710 ※	9) 広島 YMCA 国際ビジネス専門学校	2	4	4

※印：初めて地区奨励奨学金制度を導入した地区

■地区を越えた大学を指定校とする制度

2570地区が、近隣2770地区所在の埼玉大学を指定し、枠を満たす4名の被推薦者を受け、1名が合格となりました。

【地区を超えた指定校】

2007年度は、2770地区が2580地区の東京大学（医学系枠：2名、合格2名）、お茶の水女子大学（枠：2名、合格1名）、2790地区の聖徳大学（枠：2名、合格1名）を指定し、合計4名合格。

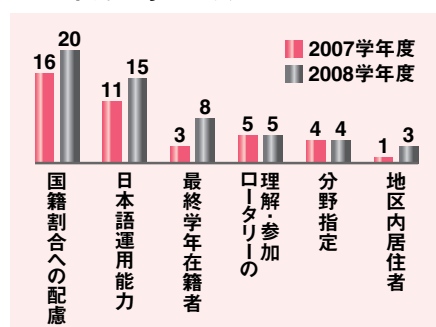
■指定校に対する「地区からの選考の目安」提示地区

26地区が指定校に対して選考の目安を提示しました。

傾向は、「国籍の偏りへの配慮」（20件）が最多で、続いて「日本語能力」（15件）の必要性が打ち出されています。また、「最終学年在籍者」の指定が8件と前年の3件を上回りました。これは、奨学期間1年の採用を増やすことにより、より多くの奨学生を採用したいという地区の意向の現れです。

なお、研究分野の指定においては、2710地区から「水保全、識字率の低い地方での教育者を目指す者を優先して推薦して欲しい」という提示があり、研究内容への期待が地区の方針として明示された良い例となりました。

2008年度選考の目安



【傾向概略】

()内数字は、前々年度→前年→現行実績を示す。

- 「国籍割合への配慮 (15→16→20件)」
- 「日本語運用能力 (8→11→15件)」
- 「最終学年在籍者 (奨学期間1年未満の者) (6→3→8件)」
- 「ロータリー活動への理解・積極参加 (5→5→5件)」
- 「分野指定 (4→4件)」
- 「地区内居住者 (1→3件)」
- その他 「日本語能力検定試験2級程度の学生」「将来日本と母国との親善を深めようという使命感のある者」

②クラブ支援奨学金制度の募集と選考

世話クラブからの推薦によって応募を受け、各地区の選考委員会によって選考が行われました。8地区14クラブからの応募があり、9名が合格をしました。2006年度から応募資格を拡大し、博士課程最終学年の他、修士および博士課程進学者に門戸を広げましたが、課程延長の博士課程最終学年在籍者7件中4名、修士・博士課程進学者7件中5名と上級課程へ進学する奨学生の合格者が半数を超える結果となりました。

【合格数／申込数】

学年度	申込数		博士課程最終学年 合格数／申込数	修士、博士課程進学 合格数／申込数	合格者数
2006	35件	15地区 35クラブ	13／26名	1／9名	14名
2007	24件	12地区 24クラブ	10／12名	5／12名	15名
2008	14件	9地区 14クラブ	4／7名	5／7名	9名

③海外学友会推薦奨学金制度の募集と選考

台湾学友会および韓国学友会にて選考委員会が組織され、2007年10月から現地にて公募しました。その結果、台湾で6名の応募があり、現地での書類・面接を経て合格候補者1名が選出され、韓国では、資格を満たす応募者がありませんでした。

【合格数／申込数】

年度	採用数／ 採用枠	韓国 合格数／申込数	台湾 合格数／申込数
2006	2／2名	1／2名	1／7名
2007	2／2名	1／2名	1／4名
2008	1／2名	0／0名	1／6名

④現地採用ロータリー米山記念奨学生（Vietnam）の募集・選考・合格

現地採用奨学金は、2007年度採用を初年度とし3年間はベトナムを対象国として試行されています。施行2年目にあたる2008年度採用の現地奨学生募集広告は、商業誌“トイチェ”、“タンニャン”に計4回（1月8日（月）、12日（金）、15日（月）、19（金））掲載されました。ホーチミンでの募集窓口は、前年度どおりUSSH（ホーチミン市人文社会科学大学）としました。

その結果、約200名の問い合わせを受け、70名から応募がありました。応募者に対して、2007年5月14日に英語筆記試験を実施したところ49名の受験があり、その得点と提出書類内容を含めて書類選考を行い、10名を日本語研修生として選抜しました。10名の日本語研修生は、研修中に他奨学金合格（2名）や大学での研究や職場での勤務を優先（2名）、留学自体を断念（2名）の計6名の辞退が発生し、定められた6カ月間の日本語研修期間を修めたのは4名でした。12月初旬、日本側からロータリアンで組織された選考委員会（米山奨学会・東京）の代表が現地に面接官として出向き、

現地学友による協力のもと、最終面接を行いました。その結果、2名が選ばれ、最終的に、2008年3月14日開催、選考委員会（米山奨学会・東京）で、面接・選考の経過が説明され、この2名の合格者が承認されました。

【2008年度の合格者】

氏名	グエン・タイ・ヴィエト・ハー
受入校	早稲田大学大学院修士課程アジア太平洋研究科
研究内容	グローバリゼーションにおけるベトナム若者の10年後のライフスタイルの将来像
受入地区	2750地区
奨学期間	2008年10月～2010年9月

氏名	チャン・ミン・フエ
受入校	神戸大学大学院修士課程国際協力研究科
研究内容	アジアの経済統合におけるベトナムの課題
受入地区	2680地区
奨学期間	2008年10月～2010年9月

(3) 2008学年度奨学生数

2008学年度奨学生採用数は、813名でした。13名の超過は、地区奨励奨学金合格枠6名枠により12名採用となったことと、休学による延長者7名が含まれるためです。

2008学年度奨学生における国籍割合は、中国47.1%（前年度47.5%）、韓国14.3%（16.0%）、台湾6.6%（6.9%）、その他32%（29.6%）となりました。選考委員会（米山奨学会・東京）で、国籍割合の目安を3割以下にされるよう各地区へ通知をしていますが、在日留学生数の60%以上を占める中国籍の留学生の率が高くなりました。今後、国籍割合に関しては、募集要項における資格の見直しや、現地採用奨学金制度の拡大の是非を含め検討されます。

2. 地区別奨学生（学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援）採用数の算出基準

2008学年度奨学生（学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援）採用数794名の地区別採用数の算出方法は、以下の基準で算出しました。地区別有資格者数は、全国2007年4月現在の新設大学・大学院15（前年度18）校を含む747大学および高等専門学校64校を対象に2007年5月に行った調査を基にしています。

- ① 1割（79名）を地区別有資格者数比率で34地区に割り当てる
- ② 5割（397名）を2005年度個人平均寄付額比率で34地区に割り当てる
- ③ 4割（318名）を2005年度寄付総額比率で34地区に割り当てる

有資格が多い地区への配慮から、全体の1割が地区別有資格率によって割り当てられています。これにより、2580地区が11.7名、2750地区9.7名、2650地区5.9名、2760地区5.2名、2660地区4.4名など、寄付額とは別に地区内留学生の有資格率に比例して奨学生採用が割り当てられています。

Ⅲ. カウンセラー研修とハラスメント相談室の開設

ロータリー米山記念奨学会事業の特長である「カウンセラー制度」の充実と強化を図ることを目的に、全地区で米山カウンセラーを対象とした研修会の実施を呼びかけました。研修会は17地区で実施され、約600名が参加しました。

カウンセラー経験者同士や先輩カウンセラーからのアドバイスが、カウンセラーや世話クラブが抱える問題点の解決に役立ち、研修会実施が必須であると認識できたとの評価を得ました。実施にあたっては、パワーポイントによるプレゼンテーション資料をはじめ、カリキュラム例やカウンセラーアンケート調査結果を提供し、留学生政策事情や異文化理解に関する文献の紹介を行いました。

年度	開催地区数
2002	9
2003	24
2004	19
2005	22
2006	20
2007	17

なお、ハラスメントの無い奨学事業を目指して、2008年4月に「ハラスメント相談室」が開設されました。

奨学生として、ロータリアンとして、セクシャルハラスメント（性的嫌がらせ）やパワーハラスメント（地位や権限を利用した嫌がらせ）への認識を深めることが求められている点を強調し、何に気を付ければよいのか、文化や習慣による誤解から生ずる事例などを紹介した冊子として“ハラスメント相談室開設のご案内”を作成し、奨学生と世話クラブ・カウンセラー、および役員・委員あてに配布しました。

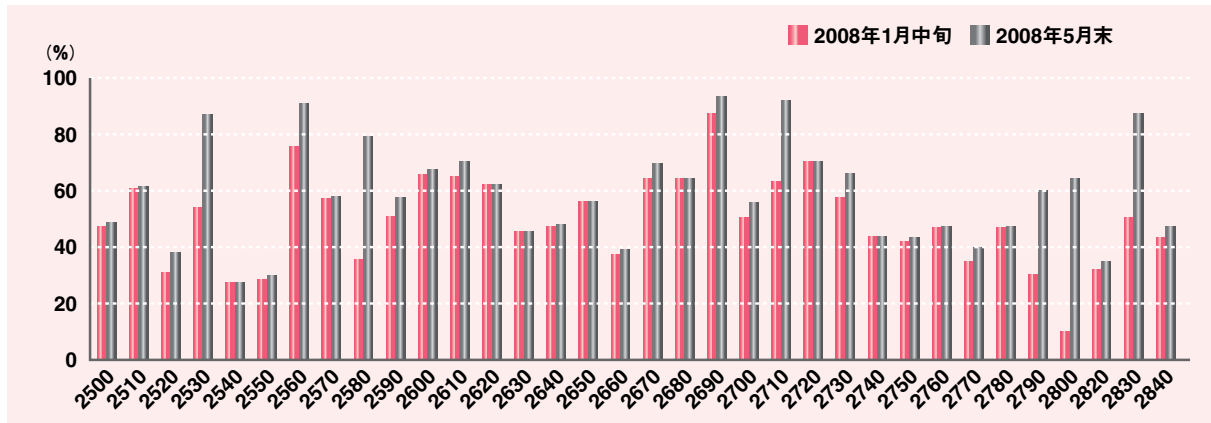
特に、2008年4月～5月にかけて実施される「奨学生オリエンテーション」では、同冊子を使用した説明を全地区にて実施しました。

Ⅳ. 学友のフォローアップ

1. 米山学友の消息を尋ねる運動

財団設立40周年を迎えた2007学年度の元米山記念奨学生累計は13,092名、世話経験のあるクラブが1,895となりました。これを機に、2007年秋に、奨学生をお預かりいただいた世話クラブを対象に、学友の消息を掘り起こす運動を始めました。具体的には、今までお預かりいただいた学友の連絡先データを世話クラブに提供し、カウンセラーを始めとしたクラブ関係者から新たな連絡先や近況をフィードバックしていただきました。

米山学友の消息調査 地区別回答数の傾向



その結果、2008年1月時点では、米山学友13,092名のうち6,352名（48.5%）の学友の新たな連絡先、消息不明となった経緯や理由が世話クラブから寄せられました。これらの情報を基に米山奨学会では“奨学生データベースの更新・情報整理”を行い、“米山学友消息調査中間報告”としてまとめ、地区ガバナー事務所および役員・委員を通じて、未回答のクラブに対する消息調査への更なる協力を呼びかけました。消息調査に終わりはありませんが、2008年5月末を区切りとして集計した結果、全体の57.5%の7,528名の学友に関する回答を受け取りました。このうち、2,455名（33%）が「連絡先が確認できる」、4,880名（65%）が「連絡が取れない」、残りの92名（2%）が無回答でした。「連絡が取れない」との回答のうち1,023名に対して、「今後連絡を取りたい」との回答がありました。「連絡が取れない」主な要因は、「カウンセラーが退会・死去されたため」（43%）であり、カウンセラー制度における課題となりました。

この調査の目的は、①消息を把握し、今後の密なる連絡を促進すること ②活躍振りを把握し広報するという点にあります。この成果を形にし、継続的な運動とするべく、2008年度には海外で活躍する学友を日本に里帰りさせる制度「米山学友ホームカミング制度」が立ち上がりました。

2. 災害時における学友・奨学生消息確認

事務局では、災害・被災地在住の奨学生の安否を確認し、特別なケースが発生した場合にカウンセラーおよび地区役員に報告しています。安否確認方法は、被災地在住あるいは被災地出身のメールを保持する奨学生・学友に対して、メールでの連絡・情報収集をしています。2007年度における災害時消息確認は以下のとおりです。現時点では、大きな被害報告は受けていません。

- | | |
|-----------------------------|---------|
| ① 新潟県中越沖地震（2007年7月16日） | 対象：137名 |
| ② バングラデシュサイクロン（2007年11月15日） | 対象：136名 |
| ③ ミャンマーサイクロン（2008年5月5日） | 対象：70名 |
| ④ 四川省地震（2008年5月12日） | 対象：53名 |
| ⑤ 岩手・宮城内陸地震（2008年6月14日） | 対象：72名 |

安否を気遣う当会からのメールに対して、感謝の言葉と共に現地の様子が知らされました。同時に、学友や奨学生自身が大学、留学生会および地方自治体

と連携して被災地への募金活動や支援の輪を広げるなどの報告も受けました。奨学生や学友による支援活動情報は、メール通信「ハイライトよねやま」に掲載し公開しました。

3. 学友・奨学生に対する定期的なメール発信

メールを活用し、学友をはじめ奨学生あてに誕生祝いカードを発信しました。定期的なメールの発信により、学友のロータリーファミリーの一員としての帰属意識を高める結果となり、連絡先変更や母国での活躍振りなどが知らされました。学友の活躍の様子はメール通信「ハイライトよねやま」や2007年9月発行「米山学友の群像vol.2」等に掲載しました。

V. ロータリー米山記念奨学会学友会

1. 組織

2008年度奨学生の累計は、14,500名となりました。そのうち学友は、13,687名となり、日本に滞在している学友は、約3,800名です。現在、日本国内に27の学友会（31ロータリー地区）、海外では韓国と台湾の2団体、計29団体の米山学友会が組織されています。各学友会では、奨学生終了後もロータリー会員・家族や学友同士の交流が続けられています。ロータリーの国際奉仕活動の目的に沿って展開されている主な活動は、総会、親睦会、学術セミナー、研修旅行および地区米山奨学委員会と連携した奉仕活動、新奨学生のオリエンテーション、セミナー、歓送会への協力などです。

2. インターネットを通じた学友会活動

各学友会では、メーリングリストが作成され、学友間でのメール交換、ホームページで学友会活動を紹介するほか、ロータリアン、ガバナー事務所との連絡や情報交換も活発に行われるようになってきました。

3. 学友会への情報提供

学友のデータ（氏名・奨学期間・連絡先等）を学友会会長に対して開示しています。

連絡網をデータ化することにより各学友会で必要に応じた会員への情報発信ができます。ただし、個人情報保護法を遵守するため、その扱いについては万全を期しています。

VI. 広報活動

1. 財団設立40周年記念事業：オリジナルデザイン切手シートの発行と「ロータリーの友」誌への特別広告

米山記念奨学事業に対するロータリアンの関心をあらためて喚起することを目的に、財団設立40周年を記念する広報活動を行いました。その施策の一つとして、40周年記念オリジナル切手シートを製作し、希望者に頒布しました。全クラブに案内チラシを送付したほか、当会ホームページや「ロータリーの友」、「ハイライトよねやま」などで周知宣伝、1ヵ月間に7,800シートを完売するほどの好評を博しました。約460件の申し込みのほとんどはロータリークラブでしたが、一般の切手収集家の注文もあり、ロータリー内外の認知度向上に役立ちました。

また、40周年を記念した「ロータリーの友」誌への特別広告については、「ロータリーの友」事務所のご厚意により、同誌10月号に無償で2ページの追加提供をいただきました。そのうちの1ページを広告的に用いて、PR効果を高めました。英語版の“The Rotary-no-Tomo”にも同様のカラー広告を掲載し、海外広報に活用しました。

2. ロータリーの友・よねやまだより

ロータリー地域雑誌「ロータリーの友」の協力を得て、同誌に奨学事業のページ“よねやまだより”を掲載しました。11月号からは財団設立40周年を機に、事業の歴史を振り返る新シリーズ「よねやまの歴史をたずねて」を全8回にわたって掲載しました。

単なる歴史的な事実の解説ではなく、米山記念奨学事業の成り立ちに関わった当時のロータリアンや奨学生の思いを伝えて、現在のロータリアンに共感してもらい、事業への愛着や理解を深めてもらうよう努めました。

3. 米山奨学事業・豆辞典

米山月間用資料として、奨学事業の概要をコンパクトにまとめた小冊子を作成し、全ロータリークラブへそれぞれ会員数分配布しました。発行から4年目となる今年の豆辞典は、サイズを大きくし、読みやすさを心がけながら内容をより充実させました。〔制作数：120,000部〕

4. 米山学友の群像vol.2

巣立った奨学生たちが、現在どのような活躍をしているのか、ロータリーで体験したことが、その後の人生にどのような影響を与えたのか、奨学事業の成果を知らせる広報資料として、「米山学友の群像」（隔年発行）の第2号を2007年9月中旬に発行しました。今回の号では、叙勲や表彰を受けた学友、著作を発行した学友など、さらに多くの米山学友の多彩な活躍ぶりを紹介しました。米山月間資料として、全ロータリークラブに1部ずつ送付したほか、PETSや地

区協議会資料として、各地区に必要部数を送付しました。また、対外広報資料として、関係省庁、他の奨学団体、大学など約550団体に送付しました。〔制作数（2年分）：27,500部〕

5. クラブ米山奨学委員長の手引き

クラブ米山奨学委員長の事業理解推進のため、基礎知識集としての「クラブ米山奨学委員長の手引き」を新規に発行しました。これまで発行してきた「米山寄付金マニュアル」と合冊発行とし、米山月間資料として、全ロータリークラブに1部ずつ送付しました。また、PETSや地区協議会資料として、各地区に必要部数を送付しました。〔制作数：7,000部〕

6. 事業報告書（Annual Report、統計・資料編）

Annual Report：2006年度事業報告書として全ロータリークラブおよび大学、留学生奨学団体等関係団体に配布しました。事業報告および収支決算報告とあわせて2007年度の事業計画・予算や役員・委員名簿および過去2回行われた基礎調査と2006年度制度改編からみえた課題について記載しました。〔制作数：5,000部〕

統計・資料編：奨学事業全般の統計・資料、学友会活動、留学生事情、寄付金実績などのデータ集として理事、監事、評議員、専門委員、米山奨学委員長に配布しました。〔制作数：4,000部〕

7. 米山奨学事業ハンドブック

地区での米山記念奨学事業の推進に必要な事項を詳述したハンドブックです。特に、奨学生募集・選考から合否、世話クラブ・カウンセラー依頼と選定、オリエンテーション実施など奨学生の受入れと奨学期間中のケアおよび歓送会に至るまでの手順を説明しています。なお、「奨学生選考ガイドライン」を示し、公平で差別のない選考が各地区選考委員会ですすめられるよう呼びかけています。

8. 米山カウンセラー・ハンドブック

世話クラブ、カウンセラーの役割、奨学生の心得と各種手続きおよびカウンセリング事例などについて記載した米山カウンセラーおよび世話クラブ関係者必携の冊子です。冊子巻末に、“ハラスメント相談室開設のご案内”と“奨学生ハンドブック”が合併されています。

ロータリアンとして、ハラスメントへの認識を深め、ハラスメントの無い奨学事業推進を呼びかけました。

9. 米山奨学生ハンドブック

奨学生として知っておくべき“ロータリーの歴史と目的”や“奨学事業の目的”や、奨学生としての義務と責任を記載しました。また、奨学生が行う各種手続きを説明し、カウンセラーをはじめとしたロータリアンとの交流で留意す

る点をQ&A形式で分かり易くまとめました。

また、“ハラスメント相談室の開設”をコラムで紹介するなどハラスメントへの認識を呼びかけました。

10. 広報用ポスター・バナー

地区協議会や地区大会会場に展示するための奨学事業紹介ポスター（A1サイズ×4枚組）を作成し、全地区のガバナー事務所に配布しました。また、大型展示資料として好評を得ている事業紹介バナーのリニューアル版を作成し、地区大会などの展示用に貸し出しました。

11. ビデオ

奨学事業の歴史と概要を紹介したビデオ「財団法人ロータリー米山記念奨学会」（1996年制作）と「“よねやま”との絆」（2001年制作）およびこの2つのダイジェスト版「米山月間によせて～日本のロータリーと米山奨学事業」（2002年制作・2006年一部改訂）を希望に応じて配布しました。

12. ホームページ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

幅広い広報と情報公開を目的にホームページを開設しています。

新しい奨学金プログラムの詳細や奨学生・学友の活動報告、奨学生の提出書類、Web版「ハイライトよねやま」、事業報告書や財務諸表といった米山記念奨学事業情報を掲載しています。また、地区別の寄付金納入明細表も毎月公開しています（ID・パスワード付）。英語・中国語・韓国語のページを設け、多言語化に対応した情報提供も行っています。なお、このホームページは、ロータリー・ジャパンのサイトにリンクして、広くロータリアンに情報を提供しています。

13. 電子メールによる情報発信・提供：ハイライトよねやま

Eメールとホームページを通じ、ロータリアン向けに「ハイライトよねやま」を発行し、奨学事業の最新ニュース、寄付金状況速報、学友情報などを発信しました。

14. メーリングリスト

(1) 委員長メーリングリスト

Eメールアドレスを保有する地区米山奨学委員長および有志の米山委員が登録し、情報交換や情報の共有化を図りました。

(2) カウンセラーメーリングリスト

Eメールアドレスを保有するカウンセラー経験者が任意で参加し、活動の紹介や相談・アドバイスによる情報共有とコミュニケーションを図りました。

Ⅶ. 寄付金

1. 寄付金の実績

	寄付金額	本年度予算比	前年度決算比
普通寄付金	429 百万円	0.70%減	0.91%減
特別寄付金	1,023 百万円	0.48%増	0.42%増
合計	1,452 百万円	0.13%増	0.02%増

2. 寄付クラブ・個人・法人の表彰

(1) 達成クラブ（普通寄付金および特別寄付金合計額）

達成金額	達成クラブ数	達成クラブ名	備考	
			創立年月日	会員数
1億3千万円	1	京 都 南 ロータリークラブ	1954/ 3/11	220 名
1億2千万円	2	京 都 ロータリークラブ	1925/10/ 7	204 名
		大 阪 ロータリークラブ	1922/11/17	263 名
1億1千万円	2	奈 良 ロータリークラブ	1952/ 3/27	143 名
		※ 東京江北 ロータリークラブ	1960/ 3/17	54 名
1億円	4	東 京 南 ロータリークラブ	1950/ 8/ 4	185 名
		京 都 西 ロータリークラブ	1958/ 2/ 3	104 名
		東 京 ロータリークラブ	1920/10/20	340 名
		※ 横 浜 南 ロータリークラブ	1962/ 3/30	93 名
9千万円	8	東 京 西 ロータリークラブ	1955/ 6/23	160 名
		岸 和 田 ロータリークラブ	1954/ 5/19	53 名
		大 津 ロータリークラブ	1950/12/19	118 名
		大 阪 南 ロータリークラブ	1952/12/16	134 名
		土 浦 ロータリークラブ	1958/ 2/14	66 名
		横 浜 ロータリークラブ	1927/ 6/ 1	182 名
		大 阪 北 ロータリークラブ	1952/12/16	165 名
		※ 大 阪 東 ロータリークラブ	1957/ 6/ 6	121 名
8千万円	1	京 都 東 ロータリークラブ	1956/ 5/21	105 名
7千万円以下では				
7千万円達成クラブ数: 14クラブ (3) 6千万円達成クラブ数: 17クラブ (5)				
5千万円達成クラブ数: 42クラブ (2) 4千万円達成クラブ数: 108クラブ (25)				
3千万円達成クラブ数: 233クラブ (20) 2千万円達成クラブ数: 411クラブ (37)				
1千万円達成クラブ数: 637クラブ (34)				

注:※本年度達成クラブ、会員数は1月1日現在 ()は本年度達成クラブ数

(2) 功労者、功労クラブ、功労法人、特別功労法人

	本年度増加数
米山功労者	6,623名
米山功労クラブ	907クラブ
米山功労法人	15社
米山特別功労法人	16社

米山功労者表彰者実数（10万円毎）

第1回：2,287名 第2回：1,147名 第3回：815名
 第4回：853名 第5回：446名 第6回：290名
 第7回：195名 第8回：129名 第9回：78名
 第10回：76名 第11回～第19回：211名 第20回～第29回：46名
 第30回～第39回：20名 第40回～第49回：9名 第50回以上：21名

(3) 2007年度高額寄付達成者**【個人寄付】**

坂本精志氏（2760：名古屋名東RC）累計額15,100,000円

【法人寄付】

岡城産業株式会社（2700：福岡南RC）累計額6,000,000円 富永 泰氏

(4) クラブ創立記念特別寄付

地区	クラブ数	寄付合計	地区	クラブ数	寄付合計
2510	2	20万円	2750	9	414万円
2540	1	50万円	2770	7	75万円
2550	1	10万円	2780	7	204万円
2790	5	90万円	2630	3	40万円
2820	9	155万円	2680	1	25万円
2830	1	10万円	2760	6	170万円
2840	1	10万円	2670	3	75万円
2580	4	160万円	2710	1	20万円
2590	7	80万円	2720	1	30万円
2600	5	70万円	2730	5	125万円
2610	4	230万円	合計86クラブ		2,093万円
2620	3	30万円			

(5) 地区大会記念寄付

地区	寄付合計	地区	寄付合計	地区	寄付合計
2510	30万円	2580	100万円	2780	30万円
2550	30万円	2590	30万円	2690	10万円
2790	30万円	2600	50万円	12地区 合計	440万円
2820	30万円	2750	30万円		
2570	20万円	2770	50万円		

Ⅷ. 会議および研修会の開催

1. 評議員会

2007年度 第一回 評議員会		
日時・場所	出席者	議 事
2007.8.30(木) 10:00～11:50 場所: メルパルク東京	出席者 出席 :41名 議決権行使書提出 :26名 列席 :11名 欠席 :1名 計 :79名	議長:浅川皓司評議員 a. 評議員任命の件 b. 2006年度第二回評議員会議事録承認の件 c. 理事・監事選任の件 d. 2006年度 事業報告案承認の件 e. 2006年度 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録承認の件 監事による監査報告 f. 2007年度 収支予算一部修正の件 g. その他、常務理事会・専門委員会報告、庶務報告
2007年度 第二回 評議員会		
日時・場所	出席者	議 事
2008.6.5(木) 13:00～14:20 場所: 新横浜プリンスホテル	出席 :48名 議決権行使書提出 :15名 列席 :8名 欠席 :5名 計 :76名	議長:坂本俊雄評議員 a. 2007年度 第一回評議員会議事録承認の件 b. 理事補欠選任の件 c. 2008年度 事業計画案の件 d. 2008年度 収支予算案の件 e. その他、理事会予定議案報告、会計収支報告、常務理事会・選考委員会・専門委員会報告、庶務報告

2. 理事会

2007年度 第一回 理事会		
日時・場所	出席者	議 事
2007.8.30(木) 13:00～14:30 場所: メルパルク東京	出席 :30名 議決権行使書提出 :4名 陪席 :11名 列席 :2名 欠席 :3名 計 :50名	議長:島津久厚理事長 a. 2006年度 第二回理事会議事録承認の件 b. 選考委員会規程改定案の件 c. 2007年度 選考委員会委員選任の件 d. 2006年度 事業報告案承認の件 e. 2006年度 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録承認の件 監事による監査報告 f. 2007年度 収支予算一部修正案の件 g. その他、常務理事会・専門委員会報告、庶務報告
2007年度 第二回 理事会		
日時・場所	出席者	議 事
2007.8.30(木) 14:30～14:50 場所: メルパルク東京	出席 :31名 議決権行使書提出 :4名 列席 :9名 欠席 :4名 計 :47名	議長:板橋敏雄理事長 a. 理事長、副理事長、専務理事、常務理事選任の件 b. 任期満了による副理事長および理事に対する感謝の件 c. 報告事項
2007年度 第三回 理事会		
日時・場所	出席者	議 事
2008.6.6(金) 13:00～15:30 場所: 新横浜プリンスホテル	出席 :24名 議決権行使書提出 :12名 列席 :2名 欠席 :2名 計 :40名	議長:板橋敏雄理事長 a. 2007年度 第一回・第二回理事会議事録承認の件 b. 評議員選出の件 c. 2009学年度奨学生採用の件 d. 2008年度 事業計画案の件 e. 2008年度 収支予算案の件 f. 正式名称の件 g. その他、会計収支報告、常務理事会・選考委員会・専門委員会報告、庶務報告

3. 常務理事会

日時	出席者	主な議事
2007. 8. 9(木)	出席 :12名 欠席 :0名 計 :12名	前述の理事会・評議員会での議事事項に加え、以下の件につき審議した。 a. 専門委員の委嘱の件
2007.12.13(木)	出席 :10名 欠席 :2名 計 :12名	b. 2007年度独立監査人選定の件 c. 理事会・評議員会の議案の件 d. 多地区合同奉仕活動手続きの件
2008. 3.25(火)	出席 :9名 委任状提出 :1名 欠席 :2名 計 :12名	e. 「寄付行為」理事長の職務代行の件 f. ホームカミング制度の件 g. 第2780地区特例申請の件 h. ガバナー・エレクト/次期米山奨学委員長合同セミナー開催の件
2008. 5.13(火)	出席 :11名 欠席 :1名 計 :12名	i. 2008学年度採用割当数(1名)変更の件 j. 2009学年度ロータリー米山記念奨学生採用数の件 k. 現地採用奨学金制度一部改定の件 l. 顧問の件 m. 新ビデオ製作の件 n. 独自のマーク作成 o. ロータリーの友「よねやまだより」契約更新の件 p. シンボルマークの件 q. 2008年度独立監査人選定の件

4. 選考委員会

日時	出席者	主な議事
2007. 7.24(火)	出席 :5名 列席 :2名 欠席 :3名 計 :10名	a. 2008学年度奨学生募集指定校承認の件 b. 選考委員会規程改定と選考ガイドライン作成の件 c. 大学推薦制度:指定校選定ガイドラインの件 d. 奨学生選考・評価基準の件
2007.10.19(金)	出席 :5名 列席 :2名 欠席 :1名 計 :8名	e. 奨学生の国・地域別割合の件 f. 2008学年度奨学生選考状況に関するアンケート調査報告における課題と対応 g. 2008学年度奨学生採用の可否承認の件
2008. 3.14(金)	出席 :5名 列席 :2名 欠席 :1名 計 :8名	h. 外国人医師の臨床修練期間中の生活費を補助する件 i. クラブ支援奨学生特例申請:申込期限後提出の件

5. 専門委員会

専門委員会	開催日	主な議事
財務委員会	2007. 8. 1(水) 2007.11. 8(木) 2008. 4.24(木)	a. 2006年収支決算報告 b. 2007年度収支予算一部修正 c. 2007年度 資産運用方針の件 d. 2008年度 資産運用方針案の件 e. 2008年度 独立監査人選定の件 f. 寄付状況の件 g. 2008年度収支予算案の件

専門委員会	開催日	主な議事
広報委員会	2007.11.16(金) 2008. 3. 7(金) 2008. 4.28(月)	a. 2007年度広報ツールについての評価 b. 新ビデオ(DVD)制作の件 c. 2008年度広報重点方針 d. 2008年度新規施策についての件 e. 「ロータリーの友」よねやまだよりの契約更新の件 f. 独自のマーク作成の件
学務・学友委員会	2007. 7.24(火) 2007.11.29(木) 2008. 2.28(木) 2008. 5. 8(木)	a. ダブルディグリー制度による留学対応の件 b. クラブ支援ロータリー米山奨学金制度見直しの件 c. ハラスメント防止ガイドラインの件 d. ホームカミング制度実施具体案の件 e. 2540、2730地区学友会設立の件 f. 2008学年度採用に余剰が発生した際の対応の件 g. 現地採用奨学金制度:3年目募集計画・応募資格一部改定の件 h. 地区別奨学生割当数見直しの件 i. 奨学期間が半年以下となる場合のカウント方法 j. 2009学年度奨学生採用数および奨学金別採用数内訳の件 k. 2009学年度地区別奨学生割当数(シミュレーション)の件 l. 2009学年度募集要項見直しの件、奨学生募集ポスター作成の件 m. 今後の制度改編の件

6. 研修会の開催

(1) 2008-09年度ガバナー・エレクト研修会／米山奨学委員長合同セミナー

地区のリーダーであるガバナー・エレクトと実務担当である次期米山奨学委員長を対象にセミナーを開催しました。合同での開催は今回が4回目です。午前の部は小沢一彦RI理事を来賓に迎え、奨学事業の財政、事業推進、基礎知識と広報への方策など事業説明、また、関場慶博2830パストガバナーによる特別講演、奨学生卓話を行いました。午後の分科会では5つのグループに分かれ各講師による発表と参加者による熱心なディスカッションが行われました。

◆基調講演：小沢一彦RI理事

◆特別講演：関場慶博2830パストガバナー(2007-09米山記念奨学会選考委員)

◆米山奨学生卓話：モハメド・オマル・アブディン

(スーダン／2750 東京国立白うめRC)

楊 珠玲 (中国／2530 福島RC)

◆分科会／全体会議

分科会講師：鈴木清次2590パストガバナー、田村亮夫2770パストガバナー、
渡辺喜代美2500地区委員長、久世晴雅2770パストガバナー
関 博子2750地区米山委員長

開催日：2007年12月21日(金) 11:00～17:00

(2) 米山奨学事業に関する意見交換

2007年8月開催および2008年6月開催の評議員会・理事会終了後、意見交換を行いました。公益法人制度改革説明と現地採用奨学金制度の現状と今後の課題についての積極的な意見が出されました。

IX. 庶務事項**1. 登記**

理事および資産総額変更登記は2007（平成19）年9月20日に完了しました。

2. 文部科学省関連**■租税特別措置法証明書**

2007年8月27日（月）に、文部科学省高等教育局学生支援課へ租税特別措置法の証明書交付の申請をし、9月13日（木）に証明書を受領しました。

なお、証明書の有効期間は発行日から2年間となります。

*租税特別措置法：相続税の優遇措置。遺贈した財産は相続財産から控除される。

3. 監査**(1) 外部監査**

下記のとおり、会計および会計書類その他の手続について、永山茂行公認会計士による監査を受けました。

〔監 査 日〕

2007年7月分……	2007年8月27日	2008年1月分……	2008年2月29日
〳 8月分……	〳 10月4日	〳 2月分……	〳 3月31日
〳 9月分……	〳 10月30日	〳 3月分……	〳 4月30日
〳 10月分……	〳 11月30日	〳 4月分……	〳 5月28日
〳 11月分……	〳 12月21日	〳 5月分……	〳 6月25日
〳 12月分……	2008年1月31日	〳 6月分……	〳 7月16日

(2) 監事監査

監事は永山茂行公認会計士の監査報告をうけ、下記のとおり会計報告および業務の執行につき監査を行いました。また、業務監査を行うため、常務理事会に出席しました。

2007年7～9月分…2007年11月5日 実施

2007年10～12月分…2008年2月20日 実施

2008年1～3月分…2008年5月21日 実施

2008年4～6月分…2008年7月23日 実施

4. 日韓親善会議開催

2007年9月7日～8日、青森市で第9回ロータリー日韓親善会議が開催され、台風の中、韓国からの100名を含む700名が出席しました。米山記念奨学生の金静希（キム ジョン ヒ）さんが韓国語でスピーチを行ない、2750地区の関 博子委員長が通訳ブースで日本語原稿を同時に朗読しました。

日韓関係だけでなく人としての生き方にも触れたそのスピーチは、日韓両国のロータリアンから拍手と賞賛で迎えられました。

〔米山記念奨学会のホームページに全文掲載〕

5. GETS・配偶者プログラムで米山奨学生がスピーチ

2007年9月16日～17日にかけて品川・新高輪プリンスホテルで行われたGETSで、初めて本プログラムの中で米山記念奨学会を紹介する機会を得、坂下博康事務局長が1時間にわたって奨学事業の概要を説明しました。

また、配偶者プログラムでも、昨年に引き続き米山記念奨学会を紹介する時間が設けられ、現役米山記念奨学生：ジャヤトリー・ターラカー・ビジェラトナさん（スリランカ／2570坂戸RC）と、米山学友：ラジブ・シュレスタさん（ネパール／2790千葉幕張RC）がスピーチを行いました。

6. 学友からの寄付

(1) 中国の学友から50万円の寄付

弁護士として中国に投資する日本企業などのビジネスをサポートし、中国国内での問題解決に尽力している米山学友の姫 軍（ジジュン）さん（中国／1995-97年／東京大学大学院／東京臨海RC）が2007年8月に続き、2008年5月にそれぞれ50万円を中国から送金してくれました。これで累計100万円に達し、学友では4人目の米山功労者メジャードナーが誕生しました。姫さんは「未来をつくる若者のために自分の力を尽くせるのは幸せなこと。これからも力の限り、奨学会の事業に協力していきたい」と語っています。

(2) 中国の学友から11万円（1,000ドル）の寄付

米国のベンチャー企業で新薬の開発・研究に勤しむ米山学友、張 虞安（チョウ・イウアン）さん（中国／1999-2000年／近畿大学大学院／交野RC）が、米山記念奨学会への寄付金として1,000ドルを世話クラブに送金。世話クラブの交野RCから10月1日付で米山記念奨学会に入金されました。張さんは「頂いた奨学金に比べれば微々たるお金なので、クラブの募金箱にでも入れてほしい」と言っていましたが、世話クラブの熱心な勧めで米山功労者表彰を了承。第2660地区の新谷秀一ガバナーから地区大会で表彰されました。

(3) 韓国学友から毎月1万円の寄付

田 鎬鎮さん（韓国／1992-1994年／横浜国立大学／横浜鶴峰RC）は奨学生の時にお世話になった御礼を是非したいと2005年10月から毎月1万円ず

つコツコツと寄付され、その額は2007年6月で33万円に達しました。田さんは「今後、一人でも多くの奨学生が私のように学友になってから寄付してもらえたら嬉しい。これからも引き続きご寄付します。」と語っています。

(4) 台湾学友会から中越沖地震へ義援金

2007年10月24日、(社) 中華民国扶輪米山会(台湾米山学友会)の前理事長、陳 思乾氏が来訪し、7月に発生した新潟県中越沖地震への義援金として30万円を坂下博康事務局長に手渡されました。

これは、台湾学友会の理事長である阮 允恭氏(1971-74/神戸大学大学院/神戸RC)が9月の理事会で発案し、全会一致で承認されたものです。呼びかけを始めると多くの学友から手が上がり、一週間で目標額30万円に達しました。同会は、2004年の中越地震の際も30万円の義援金を送っています。

7. 日台ロータリー親善会議

2008年5月12日(月)16:00~20:00、東京・品川のパシフィックホテル東京で第1回日台ロータリー親善会議が開催され、台湾側約160名、日本側約500名、計約660名のロータリアンが出席しました。台湾学友会(正式名称:(社) 中華民国扶輪米山会)からは、阮 允恭理事長、陳 思乾前理事長、許 國文第3490地区パストガバナーを含む多くの米山学友が参加し、プログラムのなかで許 邦福元理事長が「台湾ロータリー現況報告」を行ったほか、司会の通訳を米山学友がつとめ、会場からは「米山記念奨学会の学友がこの様に活躍しているのを知らなかった」との声が上がっていました。また、会議の中で参加者を驚かせたのは、台北仁愛ロータリークラブの蔡 衍榮氏から「素晴らしい奉仕事業をしている米山記念奨学会のために」と贈られた300万円の寄付。壇上で蔡氏から板橋敏雄理事長へ小切手が手渡され、会場はどよめきと拍手に包まれました。

8. 賠償責任保険加入

国際ロータリーの「青少年交換プログラム」におけるセクシャルハラスメント訴訟を受けて、2007年7月23日、国際ロータリー日本青少年交換委員会がNPO法人として設立され、11月に賠償責任保険に正式に加入しました。当財団でも万一の場合を考慮し、12月13日(木)開催の常務理事会で賠償責任保険に加入することを決定し、2007年12月25日~2008年12月25日までの1年間の契約を締結しました。

9. 奨学団体連絡協議会(JISSA)

連絡協議会では総会、分科会を開催し留学生問題や奨学団体としての問題提起や情報交換を行いました。

2007年度の出来事



日韓親善会議（2007年9月7日～8日）



日台親善会議（2008年5月12日）



中国四川省大地震の募金活動を行う第2670地区学友会



岩手・宮城内陸地震の義援金を贈ってくれた台湾学友会
(2008/7/10米山梅吉記念館にて)



女子留学生日本語弁論大会で準優勝。



ラオスの子供に絵本の出版や図書室を設立する活動でIBBY・朝日国際児童図書普及賞を受賞



第2560地区の学友会が柏崎市内の仮設住宅で“ふれあい茶話会”を開催。手作り料理に母国文化を紹介。

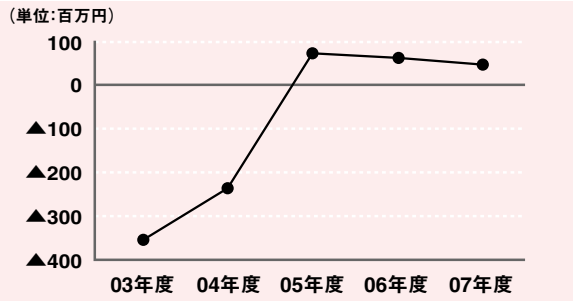


第92回二科展で6年ぶりに彫刻部の最優秀作として二科賞を受賞！作品タイトルは「大地の気運」。

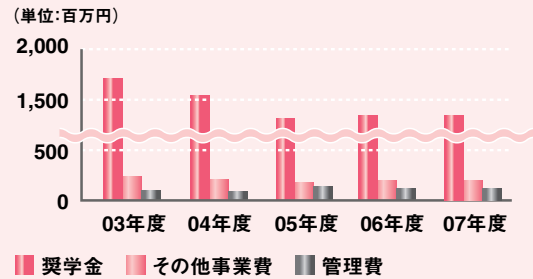
X. 会計報告 (2008年6月30日現在)

1. 目で見える財政の推移

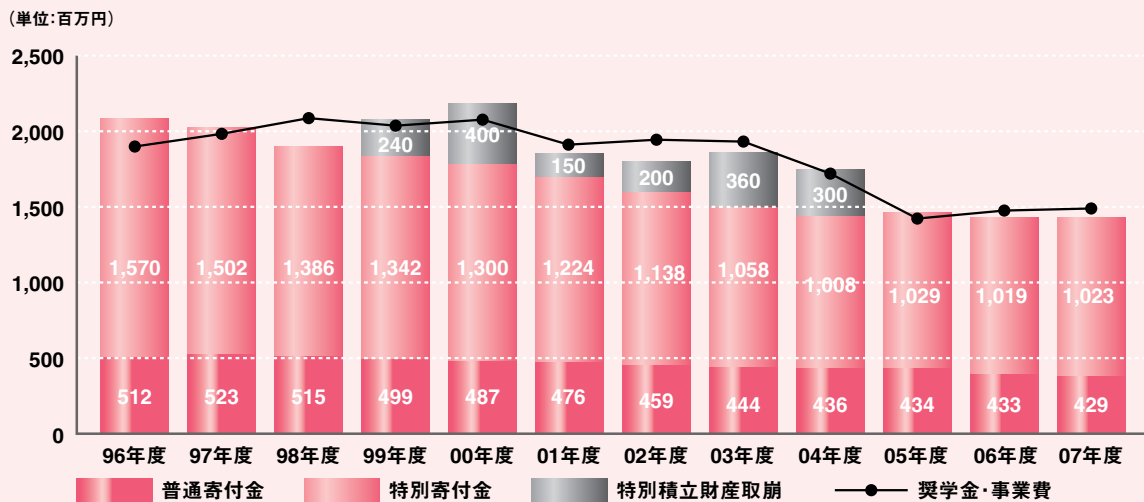
■正味財産の増減



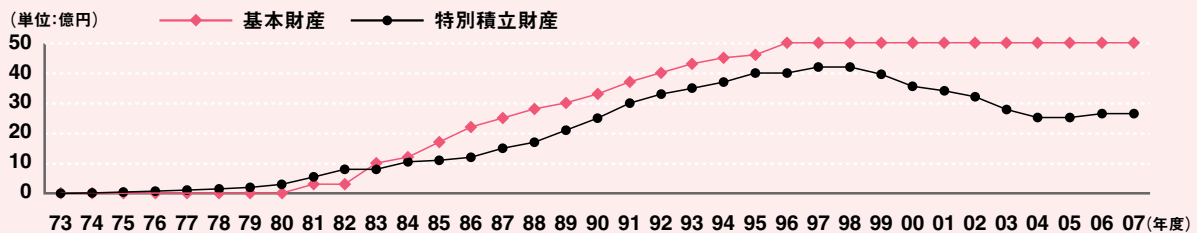
■支出推移



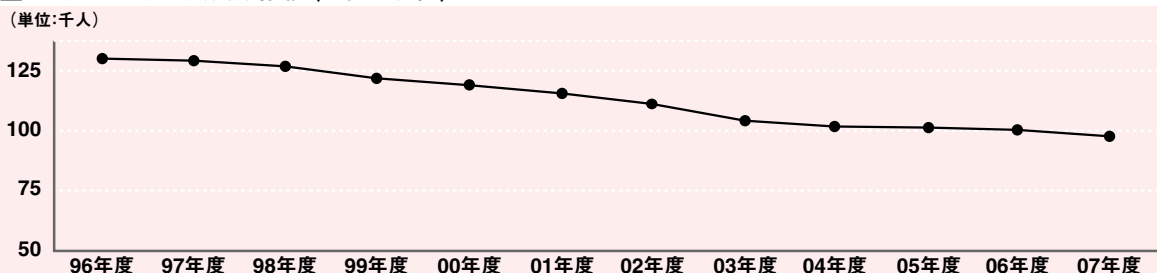
■寄付金と奨学金・事業費の推移 (1998年度～2007年度)



■基本財産・特別積立財産推移



■ロータリークラブ会員数推移 (1月1日現在)



2. 貸借対照表

資産の部 (単位:千円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
流動資産	258,079	319,365	391,846	299,413	341,615
預金	255,986	319,265	391,309	298,910	341,066
その他流動資産	2,093	100	537	503	549
基本財産	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
特別積立財産	2,850,000	2,550,000	2,550,000	2,700,000	2,700,000
その他固定資産	31,288	32,297	31,490	34,383	34,683
資産合計	8,139,367	7,901,662	7,973,336	8,033,796	8,076,298

負債の部 (単位:千円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
流動負債	104	210	65	717	0
固定負債	20,255	21,264	20,457	23,350	23,650
退職給付引当金	20,255	21,264	20,457	23,350	23,650
負債合計	20,359	21,474	20,522	24,067	23,650

正味財産の部 (単位:千円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
正味財産合計	8,119,008	7,880,188	7,952,814	8,009,729	8,052,648
(うち基本財産)	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
(うち特定資産)	2,850,000	2,550,000	2,550,000	2,700,000	2,700,000

(単位:千円)

負債及び正味財産合計	8,139,367	7,901,662	7,973,336	8,033,796	8,076,298
-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

(注) 1. 奨学資金特別積立財産は特別積立財産と称する。
2. 各年度計算書類は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

3. 正味財産増減計算書

経常収益 (単位:千円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
普通寄付金収入	443,541	436,009	434,462	432,909	428,971
特別寄付金収入	1,058,233	1,007,561	1,028,872	1,018,671	1,022,934
(寄付金合計)	1,501,774	1,443,570	1,463,334	1,451,580	1,451,905
利子収入	169,124	157,222	125,423	111,116	104,428
特別積立財産取崩収入	360,000	300,000	0	0	0
敷金戻り収入	2,596	0	11,033	0	0
移転補償金収入	0	0	14,280	0	0
雑収入	0	0	0	0	0
経常収益計	2,033,494	1,900,792	1,614,070	1,562,696	1,556,333

経常費用 (単位:千円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
事業費	1,933,393	1,748,718	1,420,927	1,432,274	1,445,710
(うち奨学金)	1,703,440	1,539,920	1,243,710	1,254,910	1,252,960
管理費	94,395	90,894	109,484	73,507	67,704
特別積立財産積立支出	0	0	0	150,000	0
敷金支出	0	0	11,033	0	
経常費用計	2,027,788	1,839,612	1,541,444	1,655,781	1,513,414

(単位:千円)

正味財産の増減	△356,890	△238,821	72,626	56,915	42,919
----------------	-----------------	-----------------	---------------	---------------	---------------

(注) 1. 奨学資金特別積立財産は特別積立財産と称する。
2. 各年度計算書類は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

より身近な奨学事業の実現にむけて

課題の整理

奨 学金制度や留学生支援のあり方は、時代や価値観の変遷とともに変化せねばならないものです。近年、ロータリー米山記念奨学会ではロータリアンや学友、大学担当者を対象としたアンケート調査を継続して実施し、その上で得られた評価・課題を基により身近な奨学事業の実現を目指して参りました。

留学生支援の目的や国費奨学金に並ぶ奨学金額の意義とは何か、優秀でロータリー運動の良き理解者になる若者をどのように募集したらよいか、新たな奨学金プログラムの設立の是非を含め、民間最大の留学生支援団体としての使命とそのあり方を模索しながらすすめた“米山奨学金制度の見直しと改定の軌跡”をまとめ、“課題”を整理しました。

第1期基礎調査で得られたこと

米山奨学事業第1期基礎調査（ロータリアンと大学担当者対象アンケート調査：1999年8月実施）を基に実施されたのが、2002年度制度改編「変わる“よねやま”～新制度」でした。改編のポイントは、「米山奨学事業の目的は、ロータリーの理想とする国際理解・親善を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献する」であることを再確認するものでした。また、奨学生支援の方針を「救済支援型奨学金ではなく知的貢献型奨学金」であるとしたことは、この改編の大きな特長でありロータリアンの意識改革を促すものでした。同時に、1999学年度から倍率が高い13地区で試行した「指定校・大学推薦制度による奨学生選考」が、情実に左右されない公正な審査方法として、ロータリアンのみならず大学担当者や被推薦者から支持される選考方法であることが確認され、2002学年度からロータリー全地区で施行が決定され、その運用は現在に至っています。

第2期基礎調査で得られたこと

第2期基礎調査（ロータリアン・米山学友対象アンケート調査：2003年8月実施）を糸口として実施されたのは、「2006年度制度改編“新生！ロータリー米山奨学事業”」でした。

第1期基礎調査の反省から、より多くのロータリアンからの意見を聴取し、フォーラムやセミナーで具体的な改編素案を提示するなどロータリアンに広く論議してもらい、意見・要望が改編に反映できるよう努めました。得られた結果は、「知的貢献型奨学事業に対する高い支持」と「指定校・大学推薦制度によせられた信頼と期待」を証明するものであり、前回実施の制度改編内容を評価できるものでした。

新たな奨学金プログラムの誕生も実現しました。優秀ながらも自費では来日できない学生を海外で募集・選考し招聘する「現地採用ロータリー米山奨学金」や、「地区奨励ロータリー米山奨学金」の設立は2006年度制度改編の目玉となりました。他に「学部課程奨学金制度」に高専専攻科在籍者に応募資格が与えられ、「クラブ支援奨学金」に上級課程へ進む米山奨学生に応募資格が与えられるなど、広がりのある制度となりました。また、近隣地区の大学を指定することが可能になり、「地区奨励奨学金制度」の導入によって短大、高専、専修学校や留学生研修団体等を指定できるなど、世話クラブの裾野が広がると同時に、地区独自の留学生支援の方針が打ち出せるようになりました。

“見送られた課題・新たな課題”と“公益法人改革”

「ロータリー米山記念奨学事業」は、日本におけるロータリーの組織力によって運営されています。民間留学生支援団体として誇る歴史と実績は、「特定公益増進法人」としての認可を文部科学省から得るなど社会的な信頼を誇っています。

一方、2008年度に公益法人関連三法の施行が予定されています。公益性ある奨学団体として認定されるためにも、現行制度の改革には慎重な対応が求められます。

公益法人改革を控え、2006年度制度改編において改革を見送らねばならぬ課題もありました。“日本人支援”や“奨学金の地域別格差”、そして“ロータリー財団と連携した奨学金プログラム”などです。これらは、奨学団体としての“設立趣意書”や“寄付行為（定款にあたるもの）”に触れるため、時期尚早とし継続審議案件として残されています。今後、更に時間をかけて協議し、多くのロータリアンから納得していただける結果を得たいものです。

同時に、現行制度への新たな改革案も寄せられるなど、制度の見直しには終わりはありません。

「前回の制度改編で見送られた課題」と「新制度が抱える課題」を以下に整理しました。

今後も米山奨学事業を取り巻く環境を見極め、財団の定款と言える“寄付行為”やその基礎を成す“設立趣意書”との摺り合わせを行いながら、ロータリアンにとって更に身近な奨学事業の実現に適うよう努めて参ります。皆様のご意見、ご提案をお待ちしております。

前回見送られた課題と新たな課題

1. 日本人学生の支援の要望
2. 奨学金額の地域別格差への要望
3. ロータリー財団と連携したプログラムの実現
4. クラブ支援奨学金制度(CY)の運用の公平性と、公益性に対する懸念と廃止案
5. シンプルで分かり易い奨学金制度の実現
→応募資格(課程・学年・国籍制限)や奨学期間の見直し
6. 地区別奨学生割当数算出の見直し

(*)各地区に奨学生採用数を割り当てる算定方式

2006年度採用より、地区の有資格者数(対象となる留学生数):個人平均寄付額:寄付総額の比率を1:5:4として、寄付の多い地区に、より多くの奨学生採用数を割り当てる方式とした。

(従来は、有資格者数3:個人平均寄付額7)